



受賞作文を発表する石黒里奈さん

射水更生保護

発行・編集

射水保護司会
会長 棚元理一
TEL 0766-52-2341
〒939-0274 射水市小島700-1
大島社会福祉センター内



1月15日 分家市長を訪ね受賞報告する石黒さん



この機関紙は一部共同募金の
配分金を受けて作成しました。

一月十五日市役所小杉庁舎に分家静男
市長を訪ね、受賞の報告をした。
石出宗一作道小学校長、棚元理一保
護司会会长が同行しました。

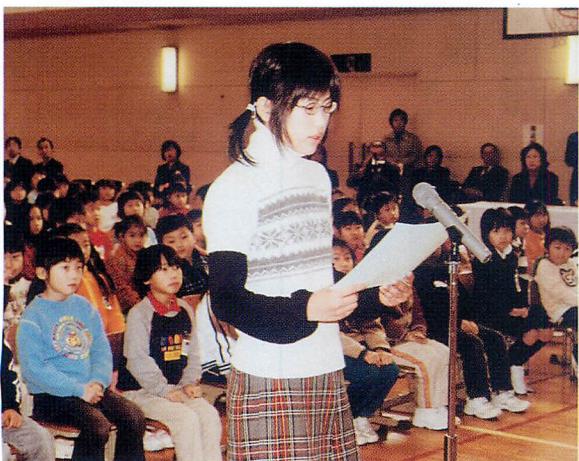
竹内伸一射水市教育委員会教育長、
棚元理一射水保護司会会长のお祝いの
言葉があり、祝電披露が行われた。
石黒さんは、「これを機に相手を思
いやる心をもって明るい学校にしてい
きたい」とお礼の言葉を述べました。

開式で始まり加藤修一富山保護観察所
長、浦嶋健一県保護司会連合会長から
表彰状、記念品が渡された。
石黒さんは「みんなで気をつけるこ
とで」と題し、言葉のいじめを乗り越
え明るい教室になつた様子を綴った作
文を披露した。

第五十六回社会を明るくする運動作文コンテストで、優秀賞(全国連合小
学校長会 会長賞)に輝いた石黒里奈さん射水市立作道小学校六年の表彰式
は一月十一日同校で行われた。

今回全国の小中学生から十三万一千
三百三十八作品、うち小学生の部は約
四万三千点の応募があり、石黒里奈さ
んの作品は、優秀賞十四点の一つに選
ばれました。表彰式は一月十一日同校
で行われ、沖隆宏更生保護振興課長の

第五十六回社会を明るくする運動
優秀賞に輝く石黒里奈さん
(全国連合小学校長会 会長賞)



授賞優秀賞（全国連合小学校長会 会長賞）
みんなが気をつけることで

射水市立作道小学校六年

石黒里奈

この小学校に入学したてのころは男子との仲が特別悪いとか、乱暴な言葉を言っている人がいるとか、ともなく楽しくすごしていた。

たが六年生の一学期はなつでから
いつのまにか「死ね。」や「ウザい。
消えろ。」等のひどい言葉が自然にク
ラス中にひびきわたっていた。

など言い合っているうちに、それが人には言つてはいけない言葉だとほだんだと思わなくなつた。私自身も、最初は「いやだなあ。」と思つていたのに、

三ヶ月ほど経つといやだとも思わなく
なつていつた。

そのうち、そんな言葉を聞き慣れてしまい、お互いに誰も注意をしようとも思わなくなつたある日、私たちのクラスに東京から転校生がやって来た。女子も男子も始めての転校生だったのでも、興味しんしんだった。しかし、あ

る日、その友達を男子たちがからかって、「お前、ウザい。死ね。」と言っていたのを見かけた。その子自身もあまり悲しそうな顔をしていなかつたので、私は、「おそらく言葉が違つていたから遊び半分でからかつていっていいのだろう。」と思つて声もかけずにそのままにしていた。そう思つたのは、前にもこの学校に来たある先生にも死ねとは言つていなければど同じようなことでからかつていたところを見たことがあつたからだと思う。

ある朝、学校へ行くとあのからかわれていた友達が休んでいることに気がついた。

「カゼでもひいたのだろう。」と思つていた。だが、朝、教室に入つてきた先生の顔がこわばつていたので「なにか悪いことでもあつたのだろうか。」となぜかピクピクしていた。読書が終わつて本を片付けたら、先生は教壇の

その転校生や男子たちだけに問題があるわけではないと思った先生はクラス全員に他の人に不満があるかどうかたずねられた。するとおどろくことに、クラスのみんなが「不満があります。」と言っていた。その、みんなの不満は黒板の書くところを埋めるほどたくさんあった。

私は、「どうしてこんなにたくさんあるのだろう。」と思い、自分なりに考えてみた。人間は一人一人顔が違う

話が進んで行くにつれ、転校生をいじめていた男子たちもいなことを言われ、やり返していたということが分かった。やられたからやり返し、ひどい言葉が生まれてくる。それを何度もくり返していた私たちは、自分たちで自分たちを苦しめているということがはっきりしてきた。

「自分自身に、『なんである時、助けてあげれなかつたのだろう。』と心の中でとてもくやんだ。」

次の日、その転校生は明るい笑顔で私に話しかけてくれた。クラスの男子とも普通に話していたので「良かった。」と思つた。

最後にみんなでどうしたら良いのかと話し合ってから、今日決めたことを必ず守ると誓った。あの転校生が安心して学校に来れるように、今後のクラブを明るくするために。

た。 ように性格も違うから、相手がじょう
だんで「バーク。」と言つても、こつ
ちは本氣で言われたようを感じて、言
い返すうちにだんだんお互ひどい言
葉にエスカレートしていくのだと思つ

私たちのクラスはまだまだ直すところがたくさんある。けれど、また、一人ひとりが注意し、声をかけあうことでのいつかは最高のクラスになると思っている。私は今、感謝している。私たちが使い慣れてしまっていた乱暴な言葉は、相手を傷つけ、悲しませている。と気づかせてくれた転校生に。そして、良いクラスにしようと努力しているみんなに。



コンテストには、市内十三の小学校、三中学校、二高校から作文五百九十四点、ポスター二百七十八点、標語九百八十五点、応募総数八千八百五十七点が寄せられた。各部門作品審査は二日間に渡り、審査が行われ優秀作文一点を県実施委員会に推薦された。

九月には、優秀作品（標語・ポスター）を新湊庁舎、小杉文化ホール（ラボール）両会場にて巡回展示も開催された。

実施委員長の分家静男市長から作文の部で市推薦賞を受けた石黒里奈さん（作道小）折口友里さん（新湊南部中）らに表彰状が手渡された。

社会を明るくする運動 射水市実施委員会と射水保護司会の同運動作品コンテスト表彰式は平成十八年十月九日同市小杉文化ホール（ラボール）まどかホールで行われ作文・ポスター・標語三部門の優秀賞に輝いた三十三人に表彰状が贈られた。

第五十六回社会を明るくする運動 作品コンテスト（作文・ポスター・標語） 優秀賞三十三人を表彰

優秀賞授与者は次の皆さんです。

▽ポスターの部 荒治陽奈（大門小）三箇佐和子（放生津小）津田真奈美（中伏木小）

中陳和歌子（小杉小）釣井陽介（歌の森小）越後沙紀（新湊小）松本愛佳（片口小）

森美紀子（奈古中）山田夏海（同）シルバカロリネ（同）中西美志（新湊南部中）

五十嵐愛子（新湊高）眞木彩奈（同）宮城夏希（同）

▽標語の部 村田祥恵（作道小）近岡那菜（塚原小）原香織（小杉小）東井航平（新湊小）川口奈緒子（歌の森小）安田依里香（東明小）津澤理子（新湊南部中）稻垣愛（射北中）加藤歩（奈古中）今井広樹（同）安田福美（同）中村さやか（大門高）

▽作文の部 石黒里奈（作道小）阿尾加奈子（片口小）川尻江梨奈（堀岡小）野尻智絵里（東明小）炭谷双葉（大門小）折口友里（新湊南部中）小山内ありさ（射北中）

施設研修を開催して

研修部長 三宅陸夫

平成十八年十月五日更正保護施設「富山養得園」及び「富山少年鑑別所」を保護司三十三名が訪問しました。ま

ず富山養得園では職員五人全員が保護

司であり、園生のハンディを心得た上

で居場所、宿泊、就労などの支援を行っ

ておりまた、保護観察所、ハローワー

ク、刑務所などの他関連機関との強力

な連携の下に活動されていました。

く感じました。有職者と無職者の保護

観察中における再犯率が一対五である

事実からも、経済的自立支援を第一に

大変な努力を注いでこられた様に思

います。園生の持つていき場のない気持

を、孤独にしてはならないとの配慮か

らか特別に広く豪華なソファーアーが設置

された談話室（しゃべり場）があつた

のがとても印象的でした。

次いで周辺の地域との調和に配慮し、緑地の多い緩衝地帯を有する富山少年鑑別所を訪問しました。非行少年の質

が「歪み」から「未熟」へと変質する

中で、少年の心の深層に踏み込んだ鑑

別をしようとした

れば、ある程度の期間が必要で

あります。私は達保護司からは

出来るだけ多くの対象者を鑑別

してほしいと思いました。



広報委員会特別企画 紙上特別座談会

部会長座談会 開催

犯罪・予防・今後の展望について!!

一月五日射水市大門総合会館（一〇一号室）にて広報部会主催による広報誌「第二号」特別企画を計画し五部会長出席のもと紙上座談会を開催した。質問テーマは三点に決め第一点は最近各メディアで報道されている残酷な犯罪事件に対する思いと保護司の役割について、第二点は射水保護司会が合併後十ヶ月が経ち発足から今日までを振り返り、新しい出会いがあり立場や活動内容についての感想。第三点は射水保護司会が今後（将来を目途に）理想とする展開、活動していくべきか各部会長に話し合って頂き最後に棚元保護司会長に意見を取り纏めて貰い終わりました。

出席者

棚元理一

射水保護司会会长

米澤治夫

総務部会長

三宅陸夫

研修部会長

梅崎一江

協力組織部会長

川口和香子

地域活動部会長

北村外雄

学校部会長

司会・進行

五十嵐繁久 広報部会長（敬称略）

事件等について、どう感じておられる

うことで、五十嵐が務めさせていただきます。堅苦しくならず、率直なお話を伺えたらと思います。よろしくお願ひいたします。

家庭、親子の絆を大切にすることを、教えることの必要性を感じます。

更生保護女性会を中心とした地域の活動であるミニ集会で広めて行きたい。

（米澤）誤認逮捕の件を知つてから、

対象者と、この人は本当に犯罪者なのかなと疑いを持ちながら対象者と接してしまったこともあると思う。

少年の対象者の場合は、非難する言葉は簡単に出てくるが、感謝の言葉は表現の仕方を知らないよう思う。気持ちは表現することが苦手なため、自白を強要されて認めてしまうことが、あるかもしれない。

（北村）保護司が対象者とかかわる時、いろんな社会資源を活用しながら職業に就かせることは本当に大切なことだと思います。

（梅崎）協力組織部会の活動の面からお話しします。

今年度より保護司の人脈から協力雇用主（対象者への援助者としての事業主）の発掘に取り組んでいます。

（司会）本日はお忙しい中、広報射水保護司会「第二号」特集企画、部会長座談会にご出席いただき、ありがとうございます。

本日の司会・進行は、広報部長とい

うことです。堅苦しくならず、率直なお話を伺えたらと思います。よろしくお願ひいたします。

（川口）小さい頃から、いいことはいい、悪いことは悪いとしつかり

子供たちは、人間の命の誕生や死に立ち会う機会が失われているので、命について考える機会が無いように思います。

犯罪や非行から立ち直るために、社会に出て職業に就き、規則正しい生活を送ることが欠かせません。ところが近年、職に就けないことがから再犯に陥るケースが増えているからです。



川口和香子さん

（川口）小さい頃から、いいことはいい、悪いことは悪いとしつかり

国としても、法務省と厚生労働省協同で、職場体験講習（職場体験講習委託費用支給）、トライアル雇用（試行雇用奨励金）、身元保証システム（対象者使用時の損害金額への見舞金）の三つの就労支援策を今年度からスタートさせました。



梅崎一江さん

（梅崎）協力組織部会で取り組んでいる、作文コンテスト、作品コンテストが更生保護の啓蒙と犯罪予防に役立つ

ると思う。

特に犯罪予防の意味から必要だと思

射水更生保護

「教育は百年の計」と言われるが、中教審は大きい重点目標を見失つて、小手先ばかりにとらわれている。長い目で物事を捉えたい。何が最終目標なのか、目先のことばかりに試行錯誤で手を付けるのでは、まともな子は育たないのではないか。社会構造の変化の影響も大きいが、戦後教育の中で宗教教育がされていないことも原因だ。

親を敬う、兄弟を大切にすると、人間として良くなっていくための基本的な心が育たない。

しつけという漢字は、今は身に美しいと書くが、昔は家の右に美しいと書いた。



米澤治夫さん

（米澤）教育としつけ、家庭環境が大事です。今の親は、勉強には熱心かもしねいが、しつけには、それほど熱心でないようを感じます。

子どもたちを取り巻く、環境も変わりました。昔の子ども達は、地域の行事や子供同士の遊びの中から、自然に「痛みを知る」ということを覚えました。今は、そういう機会が少なくなく

なりました。
（梅崎）その他の、メディアの影響も大きいものがある。

自殺報道などショッキングな事件の後、連鎖反応的な事件続きます。

メディアはショッキングな事件で、視聴者を引き付けるだけでなく、伝える側の責任も感じてほしいと思います。

（梅崎）その他、メディアの影響も大

どうなるんだろうと不安に感じていた。思の他、お互いにこだわりがありません。射水の人、新湊の人というとなく協力的に活動が進んでいると思

うました。
（北村）準備委員会では、先が暗いよ

し合いましたが、相違点も多かったですね。

（米澤）合併準備委員会で七回ほど話

し合いましたが、相違点も多かったですね。

（米澤）合併前は、予算の折り合いには苦労

したが、合併後は予算申請の仕方の相違など若干行き違いはあったものの、うまく

し合っている今、いろいろなものを一緒に体験する、子どもにどう

思うか聞く、こうすべきだと言う、そ

ういう機会を多くしていくことが大切

だと思います。

家族の中できっと、連絡の取り

合う中から、相手への思いやりが生まれると思います。

（司会）昨年四月に二つの保護司会が合併して約十ヶ月が経過しました。

今日までいろいろな活動の中で新しい出会いもあるが、苦労などもあるかと思います。

（司会）それでも大変なことだと感じて、

それが立場でお話願いします。

（梅崎）とても大変なことだと感じて、

新湊は、その

うえ湊町ということで、更にいろんな文化を取り入れる寛容さがあるのでないでしょうか。

わたしは、うまくいっていると思って

ます。

（北村）準備委員会では、先が暗いよ

うで心配したが、実際に合併してみる

と、なんのために合併したのかをそれ

ぞれがふまえて、とてもスムーズにいっ

ている。

（司会）合併後、海の日に海王丸パ

クで「社会を明るくする運動」をしま

したね。共同ではじめて大きな街宣活

動ができて、いいスタートだったのです

はないでしょうか。

（川口）雨の中でしたが、たくさんの方に集まっていたとき、成功に終わり

うれしく思いました。

（川口）活動に参加し、体験をすることでわ

かることも多いです。

（米澤）今後、会員一人一人にもいい体験をしてほしいと思います。

（米澤）せめて海王丸の時のような、大きいイベントには原則的に、皆さんに参加してほしいですね。

（司会）統一研修会が年六回に増え、会場を市内各所に変えたりして研修部長も苦労があるかと思います。



三宅陸夫さん



米澤治夫さん

（米澤）教育としつけ、家庭環境が大事です。今の親は、勉強には熱心

かもしねいが、しつけには、それはど熱心でないようを感じます。

子どもたちを取り巻く、環境も変わりました。昔の子ども達は、地域の行事や子供同士の遊びの中から、自然に「痛みを知る」ということを覚えました。今は、そういう機会が少なくなっています。

皆さんの熱意が感じられ、意識が向上してきたように思いますが、責任感も関係していると思われますか？

(三宅) 研修会、部会に欠席されるのは、一人一人の責任感の受け止め方の違いだと思います。

(米澤) 対象者を受け持ち、指導することだけが保護司の仕事だと思ってい（錯覚）ではないでしょうか。

北村部長が言われた、「啓蒙と予防」の、予防も保護司の大切な仕事だと思いますが。

(北村) 学校部会では、学校と名前がつく市内のすべての学校にコンテストの募集要項などの書類を持ってお願いに行きました。たくさんあるから大変な上、昨年度たくさんの学校にセキュリティシステムが導入されたので、一校ずつの訪問に時間がかかるようになりました。しかし、「保護司です」と言って訪ねることで、啓蒙と予防に役立っていると思っています。

子ども達も

いつか理解してくれると思っていますし。成長する中での



北村外雄さん

犯罪予防の効果も大きいと思います。

(司会) 「社会を明るくする運動」という、予防の面から取り組んでいるものがありますが、今後どんな風に広げていけばいいと思われますか。

(川口) いろんな会合に出る中で、忙しいながらもたくさんのこと学べます。

何か、他の人にも知つてもらいたい、伝えたい、と思います。

(司会) 市民が参加して、ということですか。

なければ。

(司会) 海王丸の海の日のイベントのように、たくさん的人が集まる中に入つていくのもいいですよ。

(米澤) これから順次保護司の定数が削減されていきます。

更生保護女性会や、これから立ち上げるBBSといった協力団体との連携を深めることができ一層、重要な役割を果たします。

ともに研修を重ねてゆき、保護司会という強固な組織作りが必要だと思いま

(三宅) 時代の流れ、変化を先取りしています。

ていくよう

なテーマで

研修会をし、対象者の変化に対応で

きるように、中身を充実させたいです。更に、

若い保護司の意見も取り入れて、研修部の運営に反映していきたいと思っています。

(梅崎) 先ほど保護司本人の自覚という話がありましたが、仕事を持つていると日中の研修会に出席できないこともあります。

観察所の統一研修は、対象者を持つたときに、保護司本人にとって、大きな力になります。

もしも、地元の研修日に都合がつかなかった場合、他の日の近隣地区だとえば呉羽とか、蓮華寺の研修会になら参加できるという場合もありえるのではないかでしょう。

とともに研修を重ねてゆき、保護司会熱心な人しか参加されませんが、地域に密着した、啓蒙と予防という面でやっています。

(司会) 広報活動もありますよね。

各市町村で発行している市報などを、

(米澤) 各地区から研修計画が出てきたとき、統一研修は年六回ある中で、射水で出席できないときは、他地区の研修会にも出席できるように、会長から觀察所に働きかけていただきたいですね。

(北村) 近くの学校行事に保護司が参加することも、大切だと思います。機会があるごとに自分は保護司だというと、子ども達も慣れてきます。慣れてくると、子ども達のほうから「保護司か」と言うようになります。



犯罪予防の意味では、自らPRしていくことも大事ではないでしょうか。ロータリー、ライオンズなどにも出かけて理解を仰ぎ、「ミニ集会」まで発展すれば理想的なのですが。

なかなか急には、そこまではうまくいかないですが、普段のかかわりが大切だと思います。

(川口) ビデオを観て話し合うなど、各地域で更生保護女性会がミニ集会をやっています。

(司会) 広報活動もありますよね。熱心な人しか参加されませんが、地域に密着した、啓蒙と予防という面では効果があると思います。

PR・情報提供の場として利用したらどうか、と県の広報部会でも話題になりました。

射水市の広報にも、PR・情報提供の場として保護司会のスペースを設けてもらえるようお願いしたいですね。

(司会) 棚元会長、各部長さん達のお話を聞いて、いかがでしたか。一言、お願いします。



棚元理一會長

(会長) これまで、合併準備委員会での相違点に留意し、両保護司会がうまくいくようにということに焦点を置きすぎたのではないかと反省しています。

そのために、更生保護女性会との連携が後回しになってしまったのではないか。今後は、更生保護女性会、BBSとの連携をもう少し予算化して、お互いに協力し合っていけるようにしたいです。そして、保護司会も一層運動を広げていくべきだと思っていますので、皆さんのご協力をよろしくお願ひします。

(司会) 広報委員会として、はじめて

の特別企画座談会でしたが、貴重なお話を聴かせて戴きありがとうございました。

第六期 地域定例研修会終了

(一泊研修会・懇親会開催)



五十嵐繁久

二月二十二日、二十三日定例研修会と合わせ一年間の保護司会員の親睦を深める目的で一泊研修会を開催した。

定例研修会は小杉中央図書館にて第六期定例研修会を開き、終了後会場を呉羽ハイツに移り、新湊更生保護女性会子育て支援メンバー（大伴せつ子、渡辺八重子、梅崎一江、石村むつみ）による手作り



最近思うこと

最近の驚き事件を見聞するうちに、何が正常で何が異常なのかわからなくなり、兄弟とは、夫婦とはいったいなんだろうと、考えざるを得ない衝撃をうけました。随分昔のことになりますが、テレビの普及しかけた頃に「世にも不思議な物語」で現実に有り得ない出来事が錯覚なのか、超現象なのかわかりませんが、現実の物語として放送されていたのをなぜか思い出しました。それ程、最近の兄妹による殺傷事件、そして夫婦喧嘩がいつの間にか殺人事件になり、更にバラバラ事件にまで、行ってしまふのは、どうも一過性の出来事ではなく、何となく日本の社会がどこか傷んでいるとしか思えない背景がある様に思われます。

愛情と憎しみは裏腹の関係にあるといいますが、この二つの事件を見る限り憎しみのみが表面に出てきて、何の愛情も感じられません。保護司の一人として、最初に感じたのは、この二人は本当に立ち直ることが出来るのだろうかと思う反面、本人が正気に返った時には必ず「時間よ止

まれ」又「時間を巻き戻して」と正気の涙を止めどなく流すのではないであります。誰でも夢や希望に溢れている時がある反面、小さい失敗により、ひどく落ち込んだり、悩んだりしながら大人になった気がします。どうも今から考へると、自分の力ではなく、周りの温かい家族や友人がいたことにより立ち直り普通の人間に戻れたようになります。人は一人で生きてゆけないと同様に多数の人の世話になり生かされている事をしみじみ思われます。

現代は余りにも簡単に何でも手に入れる事が出来、性慾りなくあらゆるものを使い捨てる世の中のリズムが、人間の心を蝕んでいるのではないかと思われます。人生の目的とは何でしょうか、立身出生することでなく美しい魂を磨くために与えられた時間と場所なのだと、西郷南州翁が言っておられます。「目が見えず、手足が自由で、これで自らの運命を開けぬはずはない」

◇事務局日誌◇

平成18年4月3日	第5回射水保護司会設立準備委員会	平成18年9月1日	社明作品コンテスト
26日	旧射水保護司会解散総会及び平成18年度定期総会	5日	作品(標語・ポスター)展示会場新湊庁舎
30日	学校部会	15日	研修部会協議会
31日	第1期地域別定例研修会	21日	作品(標語・ポスター)展示会場小杉文化ホール
8月8日	総務部会	25日	第4回総務部会事務打合せ会
31日	第2回射水市中学生生活体験発表大会	9月18日	第3期地域別定例研修会
8月31日	地域活動部会・広報部会・学校部会	9月1日	視察研修会富山養得園ほか
20日	第2期地域別定例研修会	10月5日	作品コンテスト表彰式
23日	及び街頭宣伝資料づくり	11月9日	第5回総務部会、役員会合同事務打合せ会
26日	第56回社会を明るくする運動法務大臣及び富山県知事メッセージ伝達	11月23日	第1回正副会長会議
29日	富山市ボルファートとやま県中学生生活体験発表大会	12月10日	研修部会
30日	竹林保護司叙勲双光章受章	12月14日	学校部会(文集作成について)
31日	祝賀会	12月16日	市長に予算要望書提出
8月8日	6・26ヤング街頭キャンペーン	12月19日	第4期地域別定例研修会
26日	広報部会	12月25日	第5期地域別定例研修会
29日	第1回理事会	1月10日	及び退任保護司送別会
30日	第56回社会を明るくする運動街頭宣伝	1月11日	研修部会
8月31日	総務部会	1月15日	学校部会(文集作成について)
20日	富山県シンポジウムin滑川	1月24日	市長に予算要望書提出
23日	更生保護相談所開設	2月1日	第4期地域別定例研修会
26日	小杉南中学校区生徒指導推進協議会	2月5日	第5期地域別定例研修会
29日	射水保護司会機関誌「射水更生保護」創刊号発行	2月8日	及び一泊研修会
8月31日	社明作品コンテスト審査会(標語・ポスターの部)	2月15日	第6期地域別定例研修会

支援・共催団体紹介

◇新湊ロータリークラブ 会長 中川文夫

三万円:「社会を明るくする運動」啓発資料小冊子(こんなとあなたはどうする)

購入代として

◇大門ライオンズクラブ 会長 藤坂和則

JR小杉駅前の広告塔 「ふれあいと対話が築く明るい社会」

◇社会福祉法人富山県共同募金会

資料購入費 資料作成費

◇新湊ロータリークラブ 会長 中川文夫

三万円:「社会を明るくする運動」啓発資料小冊子(こんなとあなたはどうする)

購入代として

◇大門ライオンズクラブ 会長 藤坂和則

JR小杉駅前の広告塔 「ふれあいと対話が築く明るい社会」

◇社会福祉法人富山県共同募金会

資料購入費 資料作成費

平成十八年度受章者紹介

○法務大臣表彰 南英子 前野昭次 真岸勝彦

○全国保護司連盟会長表彰 岩口和義

○中部地方更生保護委員会委員長表彰 炭谷幸子 田代祥一

○中部地方保護司連盟会長表彰 炭谷幸子 田代祥一

○中部地方更生保護女性連盟会長表彰 (更生保護女性会員)三田英子(射水)

○富山保護観察所長表彰 川井實 炭谷幸子

○富山保護観察所長感謝状 (家族功労) 御後くみ子 檜物淑子

○清原外茂子(射水) 北村恒子(同) 藤原康代(新湊)

(更生保護女性会員)

○株式会社井波 代表取締役 井波博文

(民間協力者)

○富山県保護司会連合会長表彰 多賀正夫 石丸誓史

保護司の異動

○退任保護司(平成十八年十一月十九日付)

朝木 唯明

尾山 茂

永きに亘り、苦勞様でした

田代 祥一

学校部会だより

第五十六回社明運動を通じ射水市内の小・中・高校生を対象とした作文・ポスター・標語。第二十五回中学生による生活体験発表大会開催の中から各部門優秀作品を一冊の文集としてとりまとめ

内容はA4版カラーページをつけて、作文、ポスター、標語。中学生体験発表大会の文集は

原文を掲載してあります。

第五十六回社明運動を通じ射水市内の小・中・高校生を対象とした作文・ポスター・標語。第二十五回中学生による生活体験発表大会開催の中から各部門優秀作品を一冊の文集としてとりまとめ

内容はA4版カラーページをつけて、作文、ポスター、標語。中学生体験発表大会の文集は

原文を掲載してあります。



保護司会旗 新しく出来る!!

昨年まで旧新湊保護司会で管理されていた会旗が射水保護司会との合併により一部名称を直し改めて生まれ変わりました。



編集後記

ようやく、広報誌「第一号」が発刊出来ました。今回は特に紙上企画特集として各部会長様に参加をお願いし座談会を開催し紙面の内容充実に取り組んでみました。今後の参考にしてご意見等広報部会までお寄せ下さい。発刊にあたり多くの会員・部会の皆様にご指導・協力を賜わり御礼申し上げます。(五十嵐記)